

24日 金曜

テモテ I

- 3:1 「人がもし監督の職につきたいと思うなら、それはすばらしい仕事を求めることである。」ということばは真実です。
- 3:2 ですから、監督はこういう人でなければなりません。すなわち、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、品位があり、よくもてなし、教える能力があり、
- 3:3 酒飲みでなく、暴力をふるわず、温和で、争わず、金銭に無欲で、
- 3:4 自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。
- 3:5 ・ ・ ・ 自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができでしょう。 ・ ・ ・
- 3:6 また、信者になったばかりの人であってはいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないためです。
- 3:7 また、教会外の人々にも評判の良い人でなければいけません。そしりを受け、悪魔のわなに陥らないためです。
- 3:8 執事もまたこういう人でなければなりません。謹厳で、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利をむさぼらず、
- 3:9 きよい良心をもって信仰の奥義を保っている人です。
- 3:10 まず審査を受けさせなさい。そして、非難される点がなければ、執事の職につかせなさい。
- 3:11 婦人執事も、威厳があり、悪口を言わず、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。
- 3:12 執事は、ひとりの妻の夫であって、子ど



もと家庭をよく治める人でなければなりません。

3:13 というのは、執事の務めをりっぱに果たした人は、良い地歩を占め、また、キリスト・イエスを信じる信仰について強い確信を持つことができるからです。

監督とはクリスチャンの中の指導者で、並みいる牧師や教会を指導する場合もあれば、クリスチャンのリーダーという場合も考えられるでしょう。その指導人数の多さではなく、霊的な指導者であるという尊い働きを思えば、「それはすばらしい仕事」です。

各教会の牧師や役員、またリーダーなどもここにあるような資質が求められています。それは男性だけの仕事ではなく、女性も「婦人執事」として奉仕するというのが、聖書的な男女平等の考え方です。

監督は指導者ですが、イエス様のように仕える謙遜が必要で、ここにある執事もまた仕える心が必要です。

教会の奉仕はどれも救いにつながる重要なものですから、自分自身を吟味して、少しでもふさわしい者となって、謙遜に仕えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

